**安全対策連絡協議会資料**

平成27年２月２日(月)

　　　　　　　　 在カンボジア日本国大使館

**Ⅰ　最近の「イスラム国（ＩＳＩＬ）」による事件を受けた当地における留意**

**点について**

１　テロ（イスラム過激派）を巡る一般的な情報

　　別紙「渡航情報（広域情報）」（本年２月１日付）参照

　２　当地における情勢

　　○　当地においては、現在までのところ、宗教的対立を背景としたテロ事

件の発生は確認されていない。

　　○　現時点では，カンボジアにおいて日本人・日本権益がテロや誘拐の直

接の標的とされる可能性は低いとみられているが、日本人を含む外国人

観光客が多く訪れるシアムリアップ州等の観光地、ホテル、飲食店等が

いわゆるソフトターゲットとしてテロの標的とされ、日本人がその巻き

添えとなる可能性は排除できない。

**Ⅱ　カンボジアにおける身代金目的誘拐事件対策**

１　身代金目的誘拐事件発生状況

2014年中、当地において、身代金目的誘拐事件は６件発生している。

（うち２件が未解決）

　２　発生地域

プノンペン都１件、コンポンチュナン州１件、コンポントム州１件、カ

ンダール州１件、プレイベン州１件、ストゥントレン州１件

３　誘拐・脅迫に対する心構え

誘拐や脅迫をされないためには、自らの身は自ら守る心構えを持ち、危険

度に応じた対策（通勤時の安全対策、住居の警備強化、日常行動上の注意

等の総合的な対策）をとることが重要である。

○　「目立たない」

○　「用心を怠らない」

○　「行動を予知されない」

-1-

４ 情報収集

　 (1) 心掛けること

カンボジアの情勢を常日頃からよく理解しておく為に、現在どのよう

な事件起きているか、外国企業に対する脅迫事件は起きていないか、外

国人の誘拐事件は起きていないか、日本人や日本企業に対してどのよう

なイメージを持たれているかなどにつき常に目を光らせ、日頃から情報

を収集しておくこと。

(2)　情報収集方法

○　現地新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなどの公開情報

○　当館ホームページ（<http://www.kh.emb-japan.go.jp/>）

○　当館からの在留邦人宛て一斉メール

○　外務省海外安全ホームページ（<http://www.anzen.mofa.go.jp/>）

※　カンボジアの「安全対策基礎データ」「危険情報」「テロ・誘拐

情勢」や、安全情報に関する「スポット情報」「広域情報」が掲載

されている。

　５　誘拐・脅迫の兆候の発見と予防策

(1)　兆候の発見

職場や住居の周辺、通常の移動時に、自分の周囲で少しでも普段と違

う点がないか注意を怠らないこと。

　　　　＜兆候の例＞

・　自宅や勤務先、学校周辺に不審な人物がいる。

・　自宅周辺に不審な車が止まっている。

・ 不審な警察官に質問を受けた。

・　誰かに尾行されている気配を感じる。

・　脅迫を受けたことがある。

・　現地の従業員とトラブルがあった。

 (2)　予防策

ア　企業の予防策

○　個々の企業内部の事情や個人のプライベートな事情で脅迫の対象

になる場合があることから、以下のような事情をあらかじめよく把

握しておくこと。

・　個人的に恨まれている相手はいないか。

・　社内に不穏な人物はいないか。

・　自社や日本企業全般の企業活動に対して批判的な論調はないか。

-2-

　　　　○　現地人従業員と良好な関係を築くことは当然であるが、現地人従

業員の日常の行動に留意し、会社の内部情報が漏れていないかに十

分注意すること。

○　現地人従業員をやむを得ず解雇するような場合は、カンボジアの

慣習に沿った手当を与え、怨恨を残さないこと。

イ　個人の予防策

○　日常の行動は現地の習慣や価値観に十分配慮するようにし、派手

な生活や地元住民の人々の反感を買うような行動は慎むこと。

○　住居周辺での不審者を発見するためにも、また、万一住居に異常

事態が発生した時に助けを得るためにも、近隣の住民とは日頃から

良好な人間関係を保つこと。

○　運転手や使用人については、信頼できる人から紹介してもらうと

共に、運転手や使用人に、必要以上に自分及び家族の個人情報を不

必要に漏らさないこと。

　○　訪問者に対しては、すぐには扉を開けず、覗き窓から訪問者の身

元を確認する。身元確認後、扉を開ける時にも、安全チェーンをか

けたまま、もう一度確認してから扉を開ける。

ウ　家族に対する安全対策

○　事件に巻き込まれないためには、家族全員が基本的な用心を払う

必要があることから、家族全員にどんな危険があるか理解させ、用

心すべき基本的事項について教え、家族全員に日頃から各自の行動

に注意させること。

　　　　○　出勤や帰宅時には、自宅の周辺に不審者がいないか確認させるこ

と。一人ひとりが家庭での安全確保の要であることを十分に自覚し、

基本的な安全対策が出来るよう家族、使用人等を指導すること。

　　　　○　子どもに対しては、常日頃、親から安全対策についてよく話して

聞かせること。

・　不審な人物について行かない。

・　遊び場所と通学時について指導する。

・ 日頃から連絡方法を確認しておく。

　６　誘拐事案が疑われる場合

　 (1)　警察への通報

　　　○　プノンペン市警察・観光警察部

　　　　　電話：063-969-700、023-726-900

　　　○　プノンペン　ツーリストポリス

　　　　　電話：012-942-484

-3-

　　　○　シエムリアップ　ツーリストポリス

　　　　　電話：012-402-424、012-96-9991、012-950-091

　 (2)　当館への連絡

　　　　電話：023-217-161～4（平日8:00～12:00、14:00～17:45）

　　　　　　　016-835-457（平日昼休み）

　　　　　　　078-283-587（夜間及び休館日）

**Ⅲ　2014年中のカンボジア国内犯罪情勢について**

１　昨年中の犯罪発生総件数は**2,814件**と前年と比べて105件(４%)増加している。ここ数年の犯罪発生件数の推移は下記のグラフの通りで、過去３年間、重大犯罪（殺人、強姦、強盗等）は減少傾向、その他の犯罪（窃盗、詐欺、傷害等）が増加傾向にある。

又、犯罪の半数（49%）を窃盗及び強盗の財産犯罪が占めている。

**○犯罪発生件数の推移**

-4-

２　昨年中のプノンペンにおける犯罪総件数は844件（全体の30.0%）、シェ

ムリアップ州における犯罪発生件数は25件（2.9%）であった。

-5-

-6-

**Ⅳ　2014年中の邦人犯罪被害状況及び防止対策について**

１　邦人犯罪被害件数

昨年中に当館で把握した邦人犯罪被害件数は**96件**であるが、この数字は

あくまで当館に相談や申告があった件数であり、実際はこの数倍の被害が

あると思われる。

２　邦人犯罪発生に対する当館の取り組みについて

　　当館から国家警察に対し、上記邦人犯罪被害状況を説明して犯罪対策強

化の申し入れを行っている他、当館ホームページ、当地邦人向け情報誌、

日系旅行代理店を通じて当地の邦人に対して常時注意喚起を行っている。

-7-

３　犯罪別発生状況（96件中）

(1) **ひったくり　39件（うち旅券被害28件）**

　 　○　男女別被害者数

・　男性　20人

・　女性　19人

　 ○　在留・短期滞在別被害者数

　　　 ・　在留邦人　10人

・　短期渡航者　29人

　　 ○　発生地域別被害件数

　　　 ・　プノンペン都　36件

・　シェムリアップ州　２件

・　シハヌークビル州　１件

　　　○　移動形態別被害件数

　　　　・　徒歩中　21件

・　トゥクトゥクに乗車中　13件

・　その他　５件

　　　○　犯行時における犯人の状況

・　バイク乗車中　36件

・　その他３件

(2)　**侵入盗　12件**

 　○　発生地域別被害件数

　　　　・　プノンペン都　９件

・　シェムリアップ州　１件

・　不明　２件

　　　○　時間帯別被害件数

・　日中　２件

・　夜間　７件

・　不明　３件

　　　○　在不在別被害件数

　　・　外出中　７件

・　在室（就寝）中　５件

-8-

　(3)　**すり　11件**

　 　○　男女別被害者数

・　男性　７人

・　女性　４人

 　　○　在留・短期滞在別被害者数

　　　　・　在留邦人　３人

・　短期渡航者　８人

　　　○　発生地域別被害件数

　　　　・　プノンペン都　８件

（イオンモール内３件、ナイトマーケット１件、オールドマーケット

１件、ホテル内スパ１件、路上１件、不明１件）

・　シェムリアップ州　２件

・　バッタンバン州　１件

(4)**いかさまカード賭博詐欺　18件**

※　いかさまカード賭博詐欺とは、東南アジア系男女が、主にプノンペ

ン都内の観光地やマーケットなどにおいて、主に邦人旅行者に対して

親しげに話し掛けて自宅に食事に誘った後にいかさま賭博を持ちかけ、

最終的に金品をだまし取るもの。

○　男女別被害者数

・　男性　９人

・　女性　９人

　 　○　在留・短期滞在別被害者数

　　　　・　在留邦人　２人

・　短期渡航者　16人

　　　○　発生地域別被害件数

　　　　・　プノンペン都　18件

　　　○　被害者が最初に被疑者に声を掛けられた場所

　　・　独立記念塔　２件

・　イオンモール内　２件

・　リバーサイド　１件

・　コーヒーショップ　１件

・　スパ内　１件

・　セントラルマーケット　１件

・　ソリヤモール　２件

・　ワットプノン　１件

・　王宮裏　１件

-9-

・　シハヌーク国王銅像前　１件

・　薬局内　１件

・　その他路上　４件

　　　○　国籍（自称）別被疑者数

　　　　・　フィリピン人　４人

・　カンボジア人　４人

・　インドネシア人　２人

・　マレーシア人　１人

・　不明　７人

　　　○　被害額について

　　　　・　最高被害額10,000ドル

・　平均被害額2,850ドル

(5)　**強盗　５件**

○　男女別被害者数

・　男性　５人

　 　○　在留・短期滞在別被害者数

　　　　・　短期渡航者　５人

　　　○　発生地域別被害件数

・　プノンペン都（リバーサイド付近）　１件

・　シェムリアップ州　２件

・　バンティアイミエンチャイ州（ポイペト）　１件

・　シハヌークビル～プノンペン間　１件

　　　○　強盗手段別件数

・　昏睡（薬を飲ませられた）　２件

・　素手で殴られた　２件

・　オートバイ運転中の暴行　１件

４　犯罪被害防止対策

 　 (1)　路上・店内犯罪（強盗、ひったくり、すり、置き引き）被害防止対策

ア　徒歩による移動中において

○　外を歩く際は、出来る限り手荷物を持たないようにし、可能な限

り両手を自由にしておく。

　　　　○　やむを得ずバッグ等を所持する場合は、高価なバッグ等は避けて、

バッグ本体を車道側に下げない。

○　バッグの中には高価なものは入れない。不必要に多額の現金を持

ち歩かない。又、ズボンの後ろポケットに財布を入れない。

-10-

○　バッグは肩に掛けているとひったくられやすく、また、タスキ掛

けにした場合は取られにくい反面、強奪された際、負傷する可能性

が高いことを認識する。※　タスキ掛けにした場合は両手で抱える。

○　夜間の徒歩による外出はできる限り避け、日中でも徒歩による移

動は控える。

　　　　○　女装した男性や子供による抱きつきすりも報告されていることか

ら、近付いてくる女性や子供を安易に受け入れない。

イ　車両（トゥクトゥク）による移動について

○　移動は出来る限り自家用車又はメータータクシーを利用し、なるべ

くトゥクトゥクは利用しない。モトドップ（オートバイタクシー）は

交通事故の危険性もあることから極力利用しない。

○　トゥクトゥクを利用する場合には、出来れば利用したことのある

信頼できるドライバーに依頼する。或いはホテルやレストランの従

業員に顔見知りの運転手を呼んでもらう。

　　　　○　乗車中、バッグを人目に付きやすい車内の椅子の上や膝上に置か

ない。バッグは手でしっかり抱きかかえる、または、タスキ掛けに

する等の方法によりひったくり犯に狙われにくいようにする。

　 　ウ レストラン等の店内において

○　席を離れる時は貴重品やバッグをその場に置かないで持ち歩く。

 ○　バッグを隣のイス等に置いた場合、置き引きの危険性があるため、

膝の上に置く、又は食事中もタスキ掛けにしたままにして身から離

さない。

(2)　侵入盗被害防止対策

○　出入口ドアに鍵（チェーンロックも取り付ける）を２個以上備え、

外出・就寝時は確実に施錠する。

　　　○　外出中でも部屋に貴重品を出したままにしない。必ず施錠した金庫

等に入れておく。

　　　○　外出・就寝時も窓を開放したままにしない。

(3) いかさま賭博防止対策

　　　○　旅行中や滞在先に知り合った見知らぬ人の誘いに応じて一緒に行動

したり、宿泊や食事を一緒にしたりしない。

　　　○　知り合った人物に安易に自分の宿泊先や連絡先、滞在先を教えない。

５　犯罪（強盗、ひったくり）に遭遇した場合

　(1)　けん銃やナイフ等の凶器を使用した強盗犯人に遭遇した場合

　　　○　絶対に抵抗しない。

-11-

　　　○　両手を挙げて無抵抗の意思を示す。

○　犯人を追跡せず、直ぐに警察に連絡する。（周囲のカンボジア人に

助けを求めて警察に通報してもらう。）

(2)　徒歩や自転車で移動中にひったくり被害に遭った場合

 　○　可能な限り犯人が武器を持っているかどうかを確認し、犯人が武器

を持っているのを確認した場合や、持っているかもしれないと感じた

りした場合は絶対に抵抗しない。

**Ⅴ　改正道路交通法について（2015年１月９日より施行）**

１　2014年の交通事故発生件数

昨年の交通事故発生件数は4,840件、交通事故による死者数は2,148人

で、件数及び死者数共に過去３年増加傾向にある。又、人口あたりの死者

数の割合は日本の2.35倍である。



-12-

　２　地域別交通事故発生件数

プノンペンにおける昨年の交通事故発生件数は633件（死者数241人）

で、シェムリアップ州おける昨年の交通事故発生件数は135件（死者数85

人）であった。

３　道路交通法の主な改正点

○　自動二輪車の後部座席に大人１人及び子供１人を乗せることができる。

３歳以上の子供と運転手と乗客はヘルメットを被らなければならない。

　　○　運転手は違反を犯した場合、刑事責任を有する。

　　　　管理人又はオーナーは民事的責任を有する。

　　○　無免許又は免許証を没収された状態で自動車を運転した者は６日間～

１ヶ月間の拘留又は100,000～800,000リエルの罰金に処する。

 （改正前：25,000～200,000リエル罰金）

　　○　酒酔い運転を行った者（呼気1リットル中アルコール濃度が0.40mg以

上又は血液１リットルのアルコール濃度が0.80g以上）は、１ヶ月間～

６ヶ月間の拘留又は800,000～4,000,000リエルの罰金に処する。

 （改正前：６日間～６ヶ月間の拘留又は25,000～1,000,000リエルの罰

金）

-13-

４　主な違反形態別罰金額について

　○　シートベルト着用義務違反

　　　　5,000リエル（運転者及び助手席のみ罰則）

　　○　ヘルメット着用義務違反

　　　　5,000リエル（運転者）、3,000リエル（同乗者）

　　○　携帯電話通話禁止違反

　　　　3,000リエル（オートバイ）、5,000リエル（乗用車）

○　最高速度制限

　　　・　市街地：オートバイ及び三輪車は30km/h、四輪車は40km/h

・　市街地以外：90km/h（全ての車両）

　　　※　速度違反の程度によって、3,000～6,000リエルの罰金（オートバイ）、

5,000～12,000リエルの罰金（乗用車）が課される。

-14-